

熊本・九州地震被災者の皆さんにお見舞い申し上げます

4月14日以降熊本県下を中心に強い地震が相次ぎ、19日現在47の方が亡くなられ、1000人以上の方が負傷、11万人余が避難生活を強いられています。

このホームページで、亡くなられた方にお悔やみを、被災地と被災者の皆さんに心からお見舞いを申し上げます。

励まし合い、助け合って苦難を乗り越えようとされている皆さんに敬意を表します。

熊本県下をはじめ、九州各地におられる同窓生や友人の皆さんにもお見舞い申し上げます。遠くにいて何もお手伝いできず、申し訳ありません。

大和高田にて 松尾忠

続・二上山に咲く花々 ④

ミツバアケビ(三葉木通)

アケビ科アケビ属

アケビ属の3種(アケビ、ゴヨウアケビ、本種)が二上山で自生しています。いずれも落葉つる性。開花は4~5月、花序の先端に多数着く小さい花が雄花、二つの大きなのが雌花です。秋には甘い果肉を持つ楕円球形の果実を蔓にぶら下げます。

実は熟れると皮が割れて果肉を露出させますが、この「開け実」が種名の有力な語源。漢字の「木通」はつるを切って吹くと空気が通るから。

写真は 健生会友の会山歩きクラブ澤木仁さん



続・二上山に咲く花々 ⑤

ナガバモミジイチゴ(長葉紅葉莓)

バラ科キイチゴ属

野山で最も普通に見かける木苺。黄色く実る甘い実は子どもの頃の嬉しい食べ物でした。

同属のモミジイチゴが東日本の本州に、本種が近畿以西にと分布が分かれています。

種名は葉がモミジのように裂けるから。茎には固いトゲがあり、よく藪漕ぎをする私にとっては、難敵のひとつです。

写真は 健生会友の会山歩きクラブ澤木仁さん。





二上山にも在ったカギカズラ

カギカズラ（アカネ科カギカズラ属）はつる性常緑樹で、他の木に絡みつきながら成長します。その幹には屈曲した鉤が生えており、その鉤を使って絡みつくのです。左の写真は二上山の自生地落ちていた枯れ枝ですが、見事な鉤でしょう。

つい数日前、二上山の植生の研究をされている方から、教えてもらって探したところ、群落を見つけました。

この鉤は「釣藤鉤（ちょうとうこう）」と言う漢方薬の原料で、鎮痛、血圧降下の薬になるそうです。7月頃、球状の花序をつくる花が咲くそうで、その時、花の写真を添えてご紹介したいと思います。



トキワイカリソウ（弥彦山）

塚原先生 有難うございました

（高校時代の恩師・塚原末子先生が昨年未亡くなられた。下の一文は同期生らの文集に載せてもらったものです）

塚原末子先生が亡くなられた。先生には高校で印象に残る国語の授業を受けたし、卒業後だいぶ経って、同窓同期の仲間が続けて来た「登山旅行」によく同行していただき、その積極果敢ともいべき姿勢に感嘆させられた。

高校2年の最初の授業で「私の名前（末子）はすえこであって、ひつじこではありませんよ」とおっしゃって、言葉を正確に理解し、正しく使うことを強調された。時として辛辣な批評もされたが、半世紀以上経っても思い出に残る授業であった。

登山旅行では、ほとんどの場合登山はしない「観光組」に回られたが、登山への意欲もなかなかのものだった。日本百名山のひとつ大台ヶ原では日出ヶ岳（三重県最高峰）山頂まで登られた。御年齢への配慮から案内を差し上げなくなってからも、参加したい旨のおたよりをしばしば頂いて、心が疼いた。

先生への畏敬の念を一層強めたのは、お亡くなりになってから掲載された西日本新聞のインタビュー記事であった。「被爆元教師『私も戦犯』」と題した3段抜きの記事には、若い教師として教え子を戦場に送り出したことへの自責の念を、亡くなられるまで抱き続けられていたこと、「私も戦犯ですよ」と言い、かつて教え子らが戦死した南方の地への慰霊の旅を、晩年続けられていたことなどが明らかにされていた。

旅行中の会話やテーブルスピーチの端々に、先生のお考えは出されていたと思うのだが、まとまったお話を伺う機会を得ないままになってしまった。

↓コシノコバイモ（ユリ科バイモ属、新潟弥彦山）



自公安倍政権による憲法改変・戦争への暴走が強まっている今日、先生はどうお考えだったのだろうか、お聴きしたかった。

塚原先生、先生は自らの生きざまをもって、「後悔しない生き方を」と語られたのです。私たちも、残された時間は少なくなりましたが、先生のお教を胸に刻むこととします。ありがとうございました。

2016年2月 松尾忠